

不登校や引きこもりにさせないための子育て9か条

1. 両親は、仲がよく、家庭は明るいことである。

子育ては、お父さんとお母さんが仲よく、協力も合って行う。こどもに愛情を注ぎ、信頼感を与えることが何よりも大切です。こどもの不幸は両親が仲たがいに、子育てがちくはくなことです。

2. 子どもはかばうよりも鍛えなさい。

一般に、不登校や引きこもりを示す子どもは、過保護に育てられています。母親をはじめ、周りの者が幼少時から彼らに手を貸し、あれこれと面倒をみてきています。少しでも嫌なことやきついことがあると、親に頼り、助けを求めます。自分自身で問題に立ち向かい、自分で解決していく、そんな体験をさせ、それを親は見守り、励まし、出来たら、大いに褒めてやることです。自ら解決する体験に乏しいと、ちょっとしたことで、挫折したり、その場から逃げってしまうものです。

3. 子どもはいろいろな体験を積ませなさい。

最近、子どもたちが外で遊び回ることが少なくなったようです。家の中で一人で遊んだり、テレビを見たり、ファミコンに熱中しています。そのため、友達と上手に付き合うことが出来ない。友達との関係で嫌なことがあると、家の中に逃げ込む傾向にあります。子どもは出来るだけ家から出し、子ども同士で仲良く遊び、または喧嘩をしては仲直りし、いじめにあつたらそれに立ち向かい、いろいろと体験することが大切です。また、子どもの成長には、積極的に冒険をさせることも必要です。このような体験を通して他人との協調性も生まれ、積極的になり、少々の困難にも耐えられる耐性力も身につくのです。

4. 子どもに物を与えすぎないように。

今は物が豊かになり、子ども達は幼少時から物を与えられ、欲しいものは何でも手に入る。欲しくなくとも親は勝手に与えている。そのような中で生活していると、欲しいものは何でも手に入ると思ひ、その要求も次第にエスカレートしていきます。その要求を親がかなえてくれないとたいへんです。もともと我慢することがないので、親に暴力を振るったり、無理難題を吹っかけて親を困らせます。裏を返せば、親に対して依存があり、甘えがあるのです。物を与えすぎると、工夫する気持ちも起らないし、感激もない。もっと困ったことには、我慢する心が育たないのです。

5. 子どもに期待をもち過ぎない。

親が子どもの学業成績が上がるとかスポーツで優勝するなど期待することは大切なことです。しかし、過ぎたるは及ばざるが如しで、親が子どもにあまり期待をもち過ぎると、それに押しつぶされてしまいます。親は子どもに最高の教育を受けさせ、良い高校、一流の大学を目指し、親の敷いたレールを走らせようとしています。子どもはその期待を背負って、塾に、予備校にと、時間に追われて生活しています。それが順調

に進んでいるうちはいいのですが、何かのきっかけで親の強い期待に沿えなくなった時（たとえば学業成績の低下）、その反動が出て、勉強を放棄し、学校を拒否する行動に出ることがあります。親の強い期待が裏目に出してしまうのです。親の期待は“ほどほど”が肝心です。

6. 自立させることが第一である。

子どもが大きくなっても、あれこれと世話をすることが、親の愛情であり、務めであると思っている親がいます。子どもの方は、それを拒否することもあります。親がしてくれることをごく当然のように思ってしまうがちです。これでは自分の力で最後までやり通す力はつきません。十分に手をかけてやるのは3、4歳まででしょう。後は発達段階に応じて、自分でやれることは子どもに任せることです。子どもが自分で出来たら、親はそれを変えてやることです。

7. 父親は家庭の中で父親像を確立しなさい。

最近の父親は、子どもに優しく、理解があり、物分りがよいと言われています。不登校児の親も、等しくこのような父親であり、家庭の中で影が薄い存在です。子どもの成長にとって、特に男の子では、立ち向かってはね返され、壁があり、さらには、悪い行いやわがままな行為に対しては、強い注意や抑制（叱責、罰や拒否）をする大人がいなければなりません。これが父親なのです。仕事には熱心だが、子どもには甘く、不登校が起こっても断固とした態度がとれない。父親はここぞというときには毅然たる態度で子どもと対決し、肝心な時は家庭の中で存在感のある父親であることです。子どもにとっての父親は、尊敬できる大人であり、ちょっぴり怖い男性であって欲しいものです。

8. 子どもの日常生活を正せ。

不登校や引きこもりになると、夜は遅くまで起きており、朝は起きない。昼夜逆転しています。大抵、布団を敷きっぱなしにしています。食事も家族と一緒にしない。

一般的には、家庭においては朝食も夕食も家族そろって一緒にとることです。しかも、朝も早く起床し、規則正しい生活が大切です。母親が遅くまで床に入っていると、子どもも朝寝をします。これが不登校につながっていきます。子どもは家の手伝いや毎日行う日課を決めていて、実行するようにします。子どもは机に向かって勉強さえしておればいと親子とも思っているとすれば、考え違いです。

9. 子どもに責任をとらせる。

子どもにとって嫌なこと、したくないことは、親や周囲の者が代わってしていいのでしょうか。子どもにはその力の程度で色々なことをさせ、出来ないようだったら、親も手伝ってやる。しかし、あくまでも子どもが主体です。失敗してもいい、それを踏まえて再挑戦すればいいことです。子どもの行ったことは、子ども自身に責任をとらせることです。そうすることが、困難な場面に直面した時、その場から逃避しない人間を作り上げることとなります。

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至
無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死
亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神咒是大明咒是無上咒是無等等
咒能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜
多咒即說咒曰
羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提薩婆訶
般若心經

昭和 年 月 日

為

住 所
氏 名

謹 書